

特定非営利活動法人 日本免疫学会  
平成 23 年度 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award  
研究発表報告書

申請者氏名	大内田 理佳	会員番号	0026641
申請者の所属・職名	理化学研究所 免疫・アレルギー科学総合研究センター 免疫多様性研究チーム 研究員		
出席会議名	Keystone Symposia on Regulation of Lymphocyte Signaling		
発表論文タイトル	The Fc receptor for IgM (Fc $\mu$ R) positively regulates primary and memory B cell responses		

実施結果:

この度は Tadamitsu Kishimoto International Travel Award を賜り誠に有難うございました。

3月11日から16日まで、アメリカのコロラド州キーストンで開催された Keystone symposia に参加し、ポスター発表を行ってきました。Keystone symposia は多くの分野にわたる最もクオリティーの高い国際学会の一つで、今回私が参加したのは、リンパ球の分化や活性化をトピックとしたミーティングでした。この専門分野のミーティングは隔年で行われており、2年前に参加した際は、リンパ球の発生・分化に関わる転写制御、クロマチンリモデリング、抗原受容体からのシグナル伝達の多様性、免疫シナプス形成などの可視化解析など、細胞の内側でのイベントについて焦点をあてた研究が中心でありました。しかしながら、今回のミーティングでは、基礎研究に対するニーズがより臨床応用に求められている背景もあり、細胞内イベントの理解を通じた「ベンチからベッドへ」を特に意識した研究発表が増えてきたという印象を受けました。

私は、最近明らかにした IgM 受容体の機能に関する報告を行い、多くの助言を得ることができました。IgM の受容体は、40 年以上も前からその存在が示唆されていながらも、ずっと不明のまま、最近になってようやく同定された受容体です。今回は、この受容体の欠損マウスの解析を通して得られた最新の知見を、ポスターにて発表させていただき、私たちの研究をアピールしました。また、本研究内容の論文投稿直前というタイミングであったことから、追加修正すべき具体的なアドバイスを得ることができ、実際に投稿に際してそれらを反映させることができたという点でも、非常に貴重な機会でありました。また同時に、本研究発表とは別の研究課題に関しても、会場で合流した共同研究グループとのディスカッションが進み、研究材料を提供してもらう約束ができたことなどを含め、多くの意味で有意義な時間を過ごすことができました。

この国際学会に参加して得られたことを、これからの研究活動に活かし、今後とも努力を重ねて行きたいと思えます。